

マール王国の人形姫 天使が奏でる愛のうた

【まーるおうこくのにんぎょうひめ てんしがかなでるあいのうた】

ジャンル	ミュージカルRPG
対応機種	ニンテンドーDS
発売元	日本一ソフトウェア
開発元	オーツー
発売日	2008年8月7日
定価	5040円（税込）
分類	劣化移植判定

暖かみのあるグラフィック、キャラクターが歌い踊るミュージカルシーンなどで好評を博したPS用RPG「[マール王国の人形姫](#)」のDS移植版。

特徴

- ▶ ミュージカルシーンは完全収録。また、「アンコール劇場」という一度観たミュージカルシーンを何度でも観ることができるモードが追加されている。Bボタンでスキップが可能になり、2回目以降のプレイにも配慮されている。
- ▶ ダンジョンはマップが上画面に表示されるため迷いにくくなり、「そうだん」コマンドを使用すると次にどうすればいいか教えてくれるなど、全体的にプレイしやすくなっている。
- ▶ 戦闘システムはシミュレーションRPGからオーソドックスなサイドビューコマンドバトルに変更。テンポはPS版より数段良い。また、PS版では画面を動き回るだけだった人形クルルが戦闘に参加するようになり、序盤の難易度が易しくなっている。
- ▶ 続々編『天使のプレゼント』に収録されていた「天使がくれた物語」「母を訪ねて」がリメイクされて収録されている他、様々なイベントが追加されている。

問題点

- ▶ キャラクターデザインが野村良治（現・Ryoji）氏から丸山薫氏に変更されており、シリーズファンからは不評の声が上がった。
 - ▶ 以前日本一ソフトウェアと野村氏の間には確執があり、そのためにデザインを担当してもらえなかったとされる（本作以前に野村氏がデザインを担当した『ラ・ピュセル』の廉価版ではパッケージ絵のみが別人のものとなっている）。その後発売された『ラ・ピュセル ラグナロック』では野村氏が戻ってきたのだが、絵柄が全く変わっていたために、「Ryojiじゃなくてよかった」という声もあったとかなかったとか。
 - ▶ 丸山氏のデザインが駄目というわけではない。事実、シリーズ最新作『[アンティフォナの聖歌姫 ～天使の楽譜 Op.A～](#)』では一定の評価を得ている。
- ▶ 容量の関係でイベントボイス、戦闘ボイスが削除されており、モンスターを仲間にすることが出来なくなった。
- ▶ 戦闘で使える人形と使えない人形の格差が広がってしまった。
 - ▶ 仲間になる人形が加えられる頃のコレット（シェリー）のレベルに比べて低く役に立たない（また2軍の人形には経験値も入りにくいいためさらに格差が広がる）ためである。
 - ▶ 使える人形はクルル・シャルテ・コロ・エリー（本編）、ナイトスポーノ・レジェム・成竜フレール（シェリー編）位であり、他の人形は仲間にした時期では最早役立たずになっている。
- ▶ 観察ノートも追加されたが、文が続編「リトルプリンセス」から流用されている。
- ▶ オリジナル版に無かったバグがあり、とある場所でエリンギヤーに話しかけるだけで金が増えるバグの他、稀にフ

リーズも掛かる、終盤でのイベントでマージョリーのHPが1番目に反映されるといった問題点もある。

- ▶ 取扱説明書までもが誤植というよりもPS版をそのまま写しただけで、公式サイトでお詫びを出している。

総評

- ▶ ミュージカルシーンは完璧で、全て歌付きで完全収録、何度でも見れるなど、ミュージカルに特化した内容といえる。また、戦闘も簡単、スピーディになり、そのほかの細かな要素もストーリーをテンポよく進められるよう改良されている。既にPSP・PS3用にゲームアーカイブス化されているが、キャラクターデザインの変更やモンスターが仲間にならないことなど、PS版からの変更点が気にならない人、本作からマールに触れようとしている人にはオススメの作品と言える。